



掲載しているイベントや行事等は中止・延期の可能性があります。開催の有無等は市 HP または 関・甲でご確認ください。また、参加の際は検温やマスクの着用をお願いする場合があります。ご理解とご協力をお願いします。

TOPICS 1
トピックス

市財政情報発信キャラクター「いばら騎士」と 令和元年度決算の概要を見よう

関財政課 ☎ 620・1612



一般・特別会計の決算状況

令和元年度決算が9月市議会で認定されました。令和元年度は、大阪北部地震の被害に対する「安全・安心なまちづくり」の推進と、「財政の健全性」の確保とともに、「次なる茨木」に向けたさらなる市民サービスの充実を図りました。また、一般会計・特別会計ともに黒字となりました。

主に税金を使って福祉・教育等の市民サービスを行うのが「一般会計」、保険料等の特定の収入で特定の事業を行うのが「特別会計」です。



表1 一般・特別会計別決算(億円)

会計	一般会計	特別会計			
		財産区	国民健康保険事業	後期高齢者医療事業	介護保険事業
歳入	925.4	51.5	279.3	41.0	188.1
歳出	905.4	1.2	269.7	39.6	184.6
繰越	11.2				
差引	8.8	50.3	9.6	1.4	3.5

差引=歳入-歳出-繰越(繰越=翌年度に繰り越す財源)

令和元年度歳出決算額の内訳(市民一人当たり)

①福祉の充実	153,200円	⑤ごみ処理や医療の充実等	24,800円
②教育の推進	39,200円	⑥借金の返済	18,100円
③道路・公園等の整備	30,800円	⑦その他	25,900円
④庁舎管理、戸籍・住民票の管理等	28,300円		

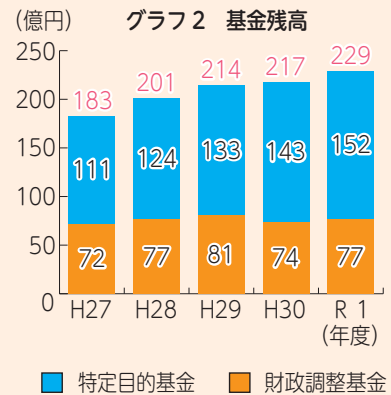
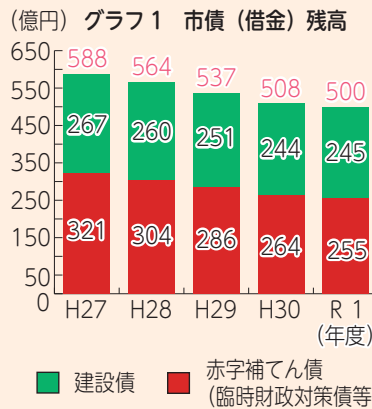
※歳出決算総額を市の人口で割った金額の内訳

市債(借金)残高・基金残高の推移

グラフ1の市債(借金)残高は、近年の市債発行抑制等の健全化の取組みによって減少しています。

グラフ2中の財政調整基金とは、災害や急激な財源不足等に対応するための、市の貯金にあたるものです。令和元年度は大阪北部地震の被害への対応を引き続き行いつつ、適切に積み立てた結果、増加しました。

また、現在、事業を進めている主要プロジェクトの財源となる特定目的基金も着実に増加しました。



まちの持続的発展のためには「財政の健全性」の確保が重要になるのね。



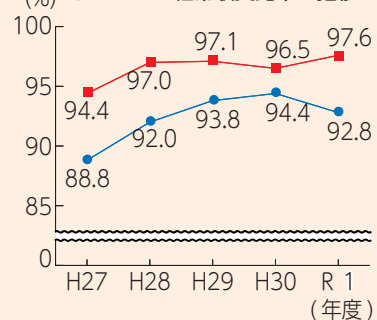
経常収支比率・ビルド&スクラップ

グラフ3は数値が低いほど、財政構造に弾力性がある(新しい事業に取り組む余裕がある)ことを示す「経常収支比率」の推移を示しています。本市は府内平均値よりも低い状態を保っていますが、今後も弾力性を維持するために、サービスの充実(ビルド)と既存サービスの見直し(スクラップ)を適切に進めていく必要があります。

これまで健全な財政運営に努めてきたから、令和2年度の新型コロナウイルス感染症対策(財政調整基金<20億円>を活用)にも、適切に対応できているんだね。



グラフ3 経常収支比率の推移



■ 府内都市平均(政令市除く、R1年度の値は茨木市試算による暫定値)
● 茨木市